

皆さん卒業おめでとう。本日ここにこうして、ご来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席のもとに、卒業式を挙行する運びとなりましたことは、誠に喜びに耐えませぬ。

皆さんは所定の年限、良く専門分野の学業に励み、学士または修士の学位を授与されることになりました。このような皆さんの晴れ姿を見ることができるのは、私達教職員にとって、大変嬉しくまさに教職員冥利に尽きるものであります。

一部の進学する人を除いて、多くの皆さんはこれで小学校以来の長い学校生活に終止符を打ち、実社会に巣立つこととなります。しかし、ご承知のように皆さんを待ち受けている社会は、百年に一度と言われる大不況であります。幸い本学では卒業生の就職先企業からの内定取り消しはほとんどなく、食と緑と環境の専門職業人育成という特色が功を奏しているものと思えますが、まだ就職先が決まってない人もいると思えます。そういう人には、卒業後も引き続き就職支援しますので、大学と連絡を取って相談して下さい。

さて、4年前の入学式で、私は皆さんに次のような格言を送りました。本学と交流協定を締結している中国上海交通大学の理念である、飲水思源と言言葉です。水を飲むものは井戸を掘った者のことと思いをせよと言言葉ですが、敷衍して、学問を学ぶ者はその成果を学ぶだけでなく先人達の智慧と努力をも理解せよということになります。生涯学習の時代、皆さんは一生この格言を忘れないでいただきたいと思えますが、社会に出れば、今度は皆さんが水源にならなければなりません。

本学で学んだ知識と技術は、仕事を通して磨き上げられていきますが、それでは解決できない種々の難問も出て来ると思えます。自分の頭で考える創意工夫が必要になります。そのためには、普段から豊かな感性と知的好奇心を持ち続け、多くの情報を収集し、また他人の仕事を良く理解しておくことが重要になります。社会や職場では利害関係や嫉妬といったものが、創意工夫をつぶしてしまうことが少なからずあります。常に謙虚に精進を重ね、他人の仕事への敬意を忘れない限り、自らの創意工夫についても他人に理解してもらえるとと思えます。そうして水源になることができます。

そこで飲水思源と言言葉とともに、もう一つエトスと言言葉を贈りたいと思えます。エトスとは、ドイツの社会学者マックス・ヴェーバーが特別な意味を付して用いた言葉ですが、それは倫理化するまで昇華された、内に秘めたる持続的な情熱とでも言う意味で、一時的な激情を意味するパトスと対になる言葉です。世の中で成功している多くの人は、一旦は挫折し、その後立ち直って人々に評価される仕事をするようになっていく場合が多いのです。いかなるときでも仕事へのエトスを保持してこそ、種々の創意工夫も浮かび結実します。ネバー・ギブアップのエトスを持った、人間的魅力に溢れた職業人になっていただきたいと思えます。

本学も創立四十周年経過し、卒業生も八千名を越えました。大学も高鍋キャンパスを都城に移転することになりますが、場所は変わっても皆さんが母校として誇れるように、食と緑と環境の専門大学として内容の充実発展をはかって参ります。卒業後も皆さんへのアフターケアには力を入れていきますので、いつでも訪ねてきて下さい。また将来皆さんも先輩として、後輩の学生の指導に当たっていただけたら嬉しく思います。

皆さんの今後の健康と健闘を祈念しまして、私の式辞といたします。